

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	272300740		
法人名	有限会社メープルの里		
事業所名	グループホームメープルの里ときわ		
所在地 (電話番号)	〒038-1214 青森県南津軽郡藤崎町常盤字三西田8-8 (電話) 0172-65-2228		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年7月2日	評価確定日	平成21年8月10日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 8月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,600 円	その他の経費(月額)	6,000 ~ 冬期9,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	190 円	昼食 250 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
または1日当たり 740 円			

(4) 利用者の概要(6月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.1 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ときわ会病院、青森浪岡病院、赤川斉藤歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設内は木の温もりが感じられる建物であり、窓からは田園や小学校等の地域の建物が一望できる環境である。 生活面では食事の準備や後片付け・炊作りなど利用者の能力に応じた役割を持ち、職員が一緒に行い共に支えあう場がみられた。利用者の生き生きとした表情からも家庭的で居心地の良い雰囲気であるということが感じられる。また、職員全員が理念を共有し利用者の意向を尊重したサービス姿勢がうかがえた。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の行事に参加するなど、馴染みの関係づくりに努力されている。また、同業者との交流・連携については、2ヶ月に1回交流会に参加されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、改善項目に関しても全職員で検討しサービスの向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、町会・役場の職員・家族の代表等が参加されている。会議の内容は申し送りや職員会議の場で話されており、職員全員に周知している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	家族との信頼関係構築には十分配慮され、日頃から意見や要望は即対応できるように職員間の連携が図られ、ケアに結びついている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事にも積極的に参加し、馴染みの関係づくりに努力されている。子供会へリサイクル品を出す等交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は職員全員で作成し、全員が周知し、援助していく上での目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時には理念を復唱し、ホールにも掲示するなどして職員への周知を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	利用者の外出の機会を積極的に設けている。町内会、近隣の施設の夏祭り、老人福祉センターでのひな祭り等にも参加し、地域の牛乳パックの回収にも協力している。また、地域の方に認知症を理解してもらえよう活動にも取り組んでいる。		近くに小学校等があるので、それらを活用した交流ができることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員は外部評価の意義を理解している。更に改善していく為に、改善案は職員からも提案してもらい、試行しながら決めている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されている。役場の職員、家族、民生委員等が参加し、様々な意見交換がされており、サービスに活かされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険の書類作成の相談にも乗って頂く等、市町村の担当者には気軽に相談ができる。地域への認知症啓発の方法もアドバイスしてもらっている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターに相談をしながら実施している。職員にも伝達して共に学んでいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について繰り返し学ぶ機会を持ち、職員間で話し合いも行なわれている。虐待は行動だけでなく、言葉の虐待もある事を職員に伝え、防止に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明の他、面会時にも質問や理解しにくい所がないか声をかけて確認をしている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の様子は毎月手紙で家族へ報告をしている。その際に金銭出納帳のコピーも同封している。報告者は毎月交替して、違う視点での報告ができるようにしている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情の受け付窓口を設けている。面会の際にも声をかけてお話を伺うように努めている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	短期間の交流人事を実施することがあるが現在大きな人事異動はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は閲覧できるようにしており、希望者は参加できる。		施設内研修も全職員が参加し、情報の共有化を図れる環境作りや外部研修に参加しやすい支援体制を期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	6月から情報交換も含めた勉強会が開催され、交流している。初回は管理者が参加したが、今後は職員も参加の予定である。		情報交換を含めた同業者との勉強会へ全職員が随時参加し、ネットワーク作りやサービスの質の向上につなげられるよう、今後の取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活歴を把握し、家族の協力を得ながらサービスを利用していただいている。また、可能な場合は入居前にグループホームと自宅を行き来して馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には畑仕事に詳しい方、調理員をされていた方がおり、個別に役割を持っていただいている。職員と一緒に取り組む事で共に支えあう関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は普段の会話から、本人の思いや意向を把握するように努めている。カンファレンスの際に職員間で確認しあい、希望、意向にそえるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向を実現する為に本人、家族、職員の意見を取り入れたカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回見直しの為のカンファレンスを実施し、新たな計画を作成している。また、変化が見られた際には随時計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>自宅への外出や墓参りなど利用者の要望に応じて支援をしている。また介護予防事業に参加し、地域の顔なじみの方と出会い、体操や食事を楽しめるように支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方から入居された方については家族の了解を得て近隣の病院に変更している。眼科受診等事前に予定されている場合は勤務に組み入れて対応している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度の利用者の受け入れはなく、身体介護を勉強する機会も少ない。また現段階では取り組む体制になっていない。		夜間の緊急時や将来的に必要な終末期対応に向けての知識習得の取り組みを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の記録の保管場所や言葉がけには十分配慮している。また、広報誌の写真は家族から了解を得てから掲載するようにしている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴、食事時間も本人の動きに合わせて個別の対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から本人の嗜好を把握し、希望に沿った食事を提供している。職員も一緒に食事をされており、和やかな雰囲気である。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決められた曜日だけでなく、畑作業から帰られたときにも入浴するなど、必要に応じた対応がされている。また温泉にも出かけられ、職員も一緒に入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の買い物は毎日しており、利用者も同行されることが多い。調理が得意な方は職員と一緒に食事の準備をしている。希望を伝えることが困難な利用者は家族からの情報で対応している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺は田園地帯になっており、随時散歩をしたり公園まで出かけたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部研修に参加した職員が事業所内で研修をし、他職員に伝達をしている。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員間で声を掛け合うようにしており、出入り口の鍵はしていない。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練を6月に実施している。近隣の住民にも協力依頼をして承諾していただいている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各利用者の食事摂取量や水分量はチェックして把握している。不足した際の補食や医療からのカロリー食も常備されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症対策についてのマニュアルを作成している。風邪等は職員から感染しないように、職員は健康管理に気をつけている。手洗いうがいも実施している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で落ち着いて過ごせるように考え、床を畳に変えたり家具の配置も工夫している。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く暮らせるように自宅から仏壇やタンスを持ってきたり、家族の写真を飾ったりと工夫している。		

 は、重点項目。